

子どもと家族と学校と

⑦

『 新一年生は要注意 』

CON カウンセリングオフィス中島

中島 弘美

◇
一年生の一年目

ピカピカの一年生といえば、うんと大きなランドセルを背負い、喜びいっぱいの小学一年生の姿を思い浮かべる。もちろん、一年生は小学生だけでなく、幼稚園、中学、高校、大学、そして入社一年目の社会人一年生、さらに新婚の花嫁や、赤ちゃんが誕生してはじめて母になる女性も、同じ新一年生にあたるだろう。

それぞれが大きな期待や希望をもって、これまでとは異なる環境のなかで生活をスタートし、ひかり輝いている。

この新一年生、とりわけその一年目は注意を要する時期だと考えている。

新しい生活のリズムを作ることがスムーズにできれば、いろいろな可能性を広げることになり、大きな成長につながる一方で、張り切りすぎて持続できずに体調を崩したり、事前に思い描いていた新生活と異なり、その落差から元気がなくなったり、環境の変化があっても、これまでと同じような調子で過ごしていて、誤解されてトラブルに巻き込まれたりする。そんな、予期せぬ事態が発生しやすいのが新しい環境のもとでの一年目だ。

◇
休み明けの五月と九月

春、当オフィスのカウンセリングにやってくる人たちは、学校からの紹介や、医療関係からの紹介が多いということもあって、高校や大学一年生が最も多い。

新年度からの新しい場面になじめず、不登校やうつ状態、不安、原因不明の体調不良に陥ったりする。

季節でとらえるとそのつまづきの著しい時期は、まずは大型連休明けの五月だ。四月のあいだは、新入生全員が浮ついていて、落ち着かないが、五月になるとそれぞれがペースをつかんでそれなりの生活をしはじめる。その波に乗れずに、うまくいかないまま、停滞すると五月の連休明けの登校が重荷になり、元気をなくす。

もうひとつの時期は、夏休み明けの九月だ。秋分の日以降の後半から十月にかけて、欠席日数がじわじわ増える時期となる。この時期どのようなことが考えられるかということ、新年度の最初はあまり思い通りにいかなかったけれど、なんとか一学期を終えた。夏休みのあいだに挽回をして二学期から軌道に乗せたいと思って、迎えた二学期。予想に反して夏休

みに充電した元気もあつという間になくなっていく。そんなとき欠席が増えてずるずると過ごしてしまう。五月と九月はそんなドラマが見受けられる。



私立学校進学はギャップが大きい

多くの人が、環境の変化を実感する最初の経験は、たとえば、私立高校に進学したときや大学入学後ではないだろうか。

それまで、地元の学校に通っていた人が、離れたところにある私立の高校や大学に進学する場合は、環境の変化がかなり大きい。(もちろん、私立小学中学受験をしたあと入学する一年生も同じような体験をしていることだと思う。)

私立の学校は規模も大きく、ひとクラスの数も多い。しかも、いろいろな地域からいろいろな人が集まっている。見知らぬ人ばかりの学校に通い、友人関係もゼロから築いていくことになる。

学校では、話すことばのちょっとした違い、習慣の違い、当然と思っていたことが通用しなかったり、カルチャーショックがあったり、新しい仲間と溶け込むまでには、紆余曲折がある。

仲間外れにならないか、気の合うともだちができるかどうか、友人関係の不安は、はかり知れない。

高校一年生の男子のなかには、入学式直後から、ひそかに同級生の力比べをしていて、ささいなことをきっかけにトラブルに発展したりする。

仲間作りのために、オリエンテーションとして、新入生を対象に宿泊研修を実施しているところもある。行事をきっか

けに多くの生徒は、気の合うともだちができるが、クラスのなかでもめてしまい、立場を複雑にすることもあるだろう。

うまくいくチャンスがあると同時に、なじめないとおきざりにされる気分にもなる。



こんなはずじゃなかった！

私立の学校に進んだ新一年生の子どもに対して、

「入学して、思っていたのと違っていたことはどんなことがあるかな？」

という質問をよく投げかける。

すると、新生活に溶け込んでいない生徒にとって、思っていたほど、学校生活が楽しくないという返事が多くをしめる。

学校見学のときにみた学校紹介の映像と現実が違う！

ある新一年生が心境を話す。

「大学受験は楽だからと私立高校をすすめられた。入学後は、もうそんなに勉強しなくてよいと思っていた。七時間目まで授業があるとか、毎日小テストがあって点数が悪ければ居残りとか、常に勉強ばかりしなければならない。それに高校に入学したばかりなのに、大学受験の話が出てきて、うんざり」

私立高校は、大学進学に力を入れているところが多く、高校の教科と大学受験の学習塾が一体になったような授業時間数の多い高校が多々ある。

学校としては、生徒の学力向上などを願って、さまざまなプログラムを用意している。保護者も質の良い教育をまとめる傾向があり、これだけ整っているのは

大歓迎と賛同する。提供する側と、求めている側の思いが一致すれば、問題は無いが、すべての生徒が同じように感じているとは限らない。

さらに通学の負担もあるようだ。

これまで七時に起きて準備をして近くの学校に行ったらよかったけれど、学校までの距離が遠いので、朝六時前に起きて、六時半に家を出て電車に乗らないと間に合わない。クラスのとみだちは、同じ方向に自宅があるわけではないので、登下校はひとりの場合が多い。その交通機関での混雑は、疲れを増すことにもなるだろう。

教科書が多くてカバンが重いし、決められている革靴も歩きにくい。

いったん、ひっかかってしまうことがあると、うまくいかない理由や不満が次から次へと出てくる。



最初の一カ月の過ごし方

ある私立高校の先生がとても大切なポイントを話してくれた。

「入学してから、中間テストまでの出だしの過ごし方が大切です。厳密に言えば、最初の定期テストで、どのぐらいの成績を残すかによって、そのあとの学校生活がほぼ決まってしまうようなところがあります。ある程度、納得できる成績をとることができる生徒さんは、友人関係や、クラブ活動など高校生活全般がだいたいうまくいっているという目安にもなります」

反対に気になるところは、

「最初の定期試験を欠席して、受けら

れない場合は、その生徒さんは同じようなことを今後くりかえす可能性がありまず、最初の試験は成績が良くないだろうと予測しても必ず試験を受けるようにと指導します。成績よりもまずは、学校のスケジュールをこなすことです。その後の定期試験で、成績が急激に上がったりする生徒さんはそれほど多くありません。

特にその傾向は女子が強く、男子の中には途中から成績アップする生徒さんもいます。けれど、成績が急に上がる生徒さんよりも、徐々に成績が低下していく生徒さんの方が多いです。」

高校生活を充実したものにするためには、四月の過ごし方がポイントとなるという高校教師の経験話。そのような傾向を事前に教えてもらっていると、保護者は、どこにポイントを置いて子どもを見守ったら良いのかとてもわかりやすくなる。



家族の解放感

受験生のいる家族は、希望する学校に合格できるようにと受験前までは熱心に応援し、なにかと協力的に接している。受験期間が終了して進学する高校が決まると、イベントが終了したかのように、たちまち関心が薄れ、家族全体が荷物を下ろした気分になる。

入学後家族が新一年生をサポートすることは受験時期に比較すると多くない。なかには、第一希望校に入学できなかったため、高校では勉強がんばれ、巻き返しをねらってさらに熱が入る場合もあるだろう。高校入学を成績のみの尺度でみ

ていくと、まさにその応援スタイルになるのだが、新しい環境に適応するには、大きな負担が伴うことは、あまり認識されていないようだ。

保護者である親も新しい高校の行事や懇談会などに参加すると、これまでよりも緊張することだろう。保護者同士も知り合いがなくて、心細く、よりどころは、担任の先生のみだったりする。

子どもも親も同じで、新一年生は、乗り越えるべき山がいくつも存在する。



クラブ活動をどうするか？

クラブ活動にまつわる話題もよく登場する。高校によっては、必ず運動部に入部することが義務付けられているコースのある学校もある。クラブ活動が授業と同じくらい重要でその成績が大学進学に反映されスポーツ推薦枠での入学なども用意されている。そう簡単にクラブ活動に入部したり、退部したりするわけにはいかない。

本格的に活動しているクラブは、全国大会を目指して、毎日厳しい練習があると、ついていだけで精いっぱい生活になってしまう。

よくある話は、レギュラーに選ばれなかったのでクラブを続けるのが苦痛になった、どうしようと悩むことだ。

クラブをやめてしまうと、レギュラーに選ばれた友達と顔を合わせるのがつらい。かといって、やめずにクラブ活動に参加していることも、不完全燃焼。

そこでどうするか、何かを決断しなければならないことが目の前にいくつかわ

き起こってくる。

これまでうまくできていたこと、やれていたことも、新しい場面では、必ずしも通用しない。

こうやって新しい生活に、もまれながら人は成長してゆく。わかってはいるものの、思い通りにならないのが続くと身にこたえる。



予防カウンセリング？

受験勉強は個人作業で、自分の力の及ぶ範囲でなんらかの結果がでてくるが、入学後の新しい環境での適応は、努力次第で問題解決できる部分は限られてしまう。

新しい環境で適応するか否かはそれまでの生活や過ごし方でなんとなく、予測されているようなこともある。

子どもの周りにいる親や大人が、ちょっとした変化見逃さないようにすることが大切だ。

人が生きていく中での節目や新しいステージへの移り変わりのときには、何がしか予定外のことが起きていることに気がつく。

希望に胸を膨らましながらも、うまくいかないことが多い。そのため、新しい環境の中で生活をするまえに、気をつけるべきこと学ぶべきことを、少しでも事前に理解していたら、結果がことなっていたかもしれないと思うことがある。

中学三年生の受験生に、高校受験の対策話はよくされているが、進学する高校が決定したあと、「入学したら、こんなことがあるかもしれないから、気をつけてよう」と前もって伝えていけば、予防で

きることもあるだろう。

子どもだけでなく、保護者も同様に事前学習が必要だ。新しい学校に進む場合、高校生活になじむための親対象の事前講座=適応できるようにするための予防カウンセリングのようなものが実現できることを願っている。